



平成 21 年 5 月 14 日

各 位

会 社 名 株式会社東理ホールディングス
コード番号 (5856) 上場取引所 東
代表者名 代表取締役社長 福村 康廣
問合せ先 取締役経営企画室長 忍田 登南
T E L (03) 3548-1014

**特別損失の計上、平成 21 年 3 月期通期（連結・個別）業績予想との差異及び
配当予想の修正等に関するお知らせ**

当社は、平成 21 年 5 月 14 日開催の取締役会において、下記のとおり関連会社株式評価損等の特別損失の計上を決議いたしましたのでお知らせいたします。

また、平成 20 年 12 月 30 日に公表いたしました「特別損失の計上および業績予想の修正に関するお知らせ」の平成 21 年 3 月期連結業績予想および個別業績予想との間に下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。

あわせて、平成 21 年 3 月期の期末配当予想について、平成 21 年 2 月 12 日に公表いたしました「平成 21 年 3 月期第 3 四半期 決算短信」における発表内容を下記のとおり修正等いたします。

記

I 特別損失の計上

1. 第 4 四半期の連結および個別業績に反映されるもの

(1) 債権への引当

グループ外への債権の内、回収可能性が低いと判断されるものについて引当処理を行いました。

債権への引当金設定 333 百万円

2. 第 4 四半期の連結業績のみに反映されるもの

(1) 子会社の債権譲渡損失

一部子会社の保有する債権の譲渡損失を計上いたしました。

債権譲渡損失 17 百万円

(2) 子会社の債権への引当

一部子会社が保有する債権の内、回収可能性が低いと判断されるものについて引当処理を行いました。

債権への引当金設定 80 百万円

(2) のれん償却

一部子会社ののれん内、収益性を考慮し、資産価値が低下したと判断されるものの償却処理を行いました。

のれん償却

64 百万円

3. 第4四半期の個別業績予想のみに反映されるもの

(1) 子会社株式評価損について

当社が保有している一部子会社の減損処理による投資有価証券評価損を特別損失として計上することといたしました。

子会社株式評価損

1,792 百万円

以上を総合しますと、特別損失は以下のようになります。

	第4四半期		通期	
	連結	個別	連結	個別
特別損失	百万円 534	百万円 2,131	百万円 3,109	百万円 4,852

II 通期（連結・個別）業績予想との差異

（金額の単位：百万円）

1. 21年3月通期連結業績予想数値との差異（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	29,985	1,479	1,578	△ 1,084	△1 円 16 銭
今回実績（B）	28,490	1,113	1,314	△ 1,872	△2 円 1 銭
増減額（B－A）	△ 1,495	△ 366	△ 264	△ 788	
増減率（%）	△ 5.0	△ 24.7	△ 16.7	—	
（ご参考）前期実績 （平成20年3月期）	32,484	1,191	△ 300	△ 9,407	△10 円 29 銭

2. 21年3月通期個別業績予想数値との差異（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	936	△ 63	56	△ 2,634	△2 円 82 銭
今回実績（B）	1,088	82	225	△ 4,561	△4 円 89 銭
増減額（B－A）	152	145	169	△ 1,927	
増減率（%）	16.2	—	301.8	—	
（ご参考）前期実績 （平成20年3月期）	4,007	1,057	879	△ 7,320	△7 円 87 銭

3. 差異の理由

通期連結業績につきましては、売上高、営業利益、経常利益および当期純利益ともに前回の予想を下回る見込となりました。

その主な理由といたしましては、売上高につきましてはダイカスト、食品流通、酒類製造事業におきまして、減収となったことによるものです。利益面では、営業利益につきましては、ダイカスト事業（△274 百万円）、教育事業（△13 百万円）、その他事業（△30 百万円）で前回予想より減収となりました。経常利益につきましては、営業利益への影響要因によります。また、純利益につきましては、第4四半期に計上した、一部子会社に関するのれんの一括償却、債権への引当及び営業利益、経常利益への影響要因によるものです。

通期個別業績につきましては、売上高、営業利益及び経常利益は前回予想を上回り、当期純利益は前回の予想を下回りました。

その主な理由といたしましては、売上につきましては、子会社からの配当収入及び経営指導料の増加によるものであります。利益面では、営業利益及び経常利益につきましては、売上高増加の要因によるものであります。当期利益につきましては、第4四半期に計上しました子会社株式評価損失及び債権への引当によるものであります。

Ⅲ 平成21年3月期期末配当予想の修正等

1. 配当予想修正等の理由

平成21年3月期連結業績予想および平成21年3月通期個別業績予想の修正のとおり当期純利益を△1,084百万円から△1,872百万円に修正いたしました。この結果、利益剰余金の処分等を勘案し期末配当につきましては誠に遺憾ながら見送りとさせていただきたく存じます。今後は継続的な配当ができる経営体質の早期確立に向け当社グループ一丸となって取組む所存であります。株主の皆様におかれましては、ご理解、ご了承のほどよろしくお願い申し上げます。

2. 修正等の内容

	1株当たり配当金（円）		
基準日	中間期	期末	年間
前回予想 （平成21年2月12日発表）	—	未定	未定
今回決定額	—	0円00銭	0円00銭
当期実績	—		
前期（平成20年3月期）実績	—	0円00銭	0円00銭

【予想に関する留意事項】

予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合がございます。

（参考）平成20年12月30日 「特別損失の計上および業績予想の修正に関するお知らせ」

平成21年 5月13日 「関連会社株式評価損等による特別損失計上に関するお知らせ」

以 上